

平成23年度 第2回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成23年9月2日(金)午後3時00分～午後5時00分
2. 場 所 大和市役所5階 第6会議室
3. 出席状況 委員9名(欠席1名)
事務局4名(文化振興課長ほか3名)
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - (1) 開会
 - (2) 文化芸術の振興のための表彰事案について
 - (3) 大和駅東側第4地区公益施設の概要について
 - (4) その他
6. 会議資料
大和市文化芸術表彰候補者(平成23年度)
大和駅東側第4地区公益施設基本計画(案)

【会議要旨】

(1) 開会

(2) 文化芸術の振興のための表彰事案について

市から、「大和市文化芸術表彰候補者(平成23年度)」について説明。
大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開

(3) 大和駅東側第4地区公益施設の概要について

市から、「大和駅東側第4地区公益施設基本計画(案)」について説明。

委 員：東日本大震災を契機に、全国的に防災対策の見直しが行われている。今回計画している施設は駅の近くなので、帰宅困難者の受け入れに対応できる施設となることを期待する。また、文化ホールを使用している時にも何が起るかわからないので、利用者がスムーズに避難できるように設計の段階から配慮する必要があると思う。

委 員：ある程度のキャパシティがないと興行は成立しないので、収入は期待できない。サブホールの300席は市民の活動発表の場として適正な規模であると思うが、収入の確保という点から考えると、メインホールの800席は中途半端な感じを受ける。また、遠い場所から来る方や楽器を持って利用する方などもいるので、駐車場の100台は少ないように感じる。現在の生涯学習センターと図書館はこの施設ができたなら売却する考えなのか。

事務局：生涯学習センターと図書館は既存の施設からの移転を考えている。移転後の施設、敷地の活用については、検討を行っている段階である。

委 員：座間市、綾瀬市、相模原市では、現在、大和市が各学校で行っている芸術鑑賞会を1回で開催することができる。小さい方が良いという人もいると思うが、ある程度はお金がかかっても器の大きいものをつくったほうが良いと思う。また、大きなホールであれば、市外の団体も使ってくれるので、収入の確保という点も期待できると思う。

委 員：発表者の立場からいうと、湘南台文化センターのような可動式のオーケストラピット

がほしい。大和で第九をという話がでて、これまでは舞台が狭く頓挫してしまっている。

委員：確かに、収容人数は大きな問題である。座間市や綾瀬市のホールは年間かなりの興行をしており、交通アクセスに恵まれていないにもかかわらず多くの人が利用している。大和駅に近い場所に大きなホールができれば、興行する側も興味を示して多く利用してくれるのではないかと。

事務局：今回、計画しているホールは、興行を目的に建設する考えはない。市民の発表の場をメインに考えると、600から800の規模が望ましいと考えている。

委員：建物の大きさから考えると、1,000席を超えるホールを建設することは難しいのではないかと。

事務局：平面で席数を増やしていくことは無理だと思う。席数を増やすために、2階席、3階席を設けたり、座席と座席の間を狭めたりすることはできると思うが、その分、施設の利用しやすさは損なわれていくのではないかと考えている。

会長：この施設では、市民に質の高い文化芸術を提供する取り組みはできないのか。

事務局：興行という形で提供することは難しいが、「感動」を得られる施設をコンセプトの一つに掲げているため、運営を工夫して実現させたいと思っている。

委員：市民の発表をメインに考えるならば、現在の施設の改修で十分であると思う。

委員：新しい施設には美術館はないのか。

事務局：今回の施設に設置する予定はない。

委員：この計画書には、生涯学習センターとエントランスに2つのギャラリーがある。生涯学習センターの方が天井などの記載があるので、どちらかというプロ仕様。一般の市民が発表するのがエントランスの方だろうと思う。ギャラリーについては、会議室のようなものにはしないでほしい。生涯学習センターのギャラリーは、世界の一流品を展示することができる内装・光量を持ち、また、作品を傷めず、湿度管理できるものにしてほしいとエントランスのギャラリーと同じものになってしまうと思う。個人的には、美術館は必要だと考えている。

委員：現在の図書館を是非美術館にしてほしい。位置的にも丁度いい場所にあり、図書館を美術館にできれば土地を購入する必要はない。市内には素敵な作家が多くいるので、少し中を改造すれば良い美術館になるのではないかと。

事務局：図書館を美術館に変えるためには、湿度管理や照明でかなり投資をしなければならない。また、その後の維持管理にも多額のコストがかかってくる。図書館施設の活用については、今後さまざまな角度から検討していきたいと思う。

委員：今の施設を残して、目的もなくさまざまな用途で使うということはやめてほしい。

委員：今回計画している施設は、民間に委託して建築やデザインを行うのか。

事務局：その通りである。

委員：そこには市内の音楽家などが関わることはできないのか。

事務局：設計の中に直接関わることはできないと思う。

委員：ホールを利用すると、この部分を少し改善すればもっと使いやすくなるのと思うことがある。大和市には音楽家協会があるので、そういった方の意見を反映できる窓口があると良い。ホールの座席については、個人的には800席程度でちょうど良いと思う。オーケストラもできる舞台をつくるならば、リハーサル室もそれに対応するものにする必要がある。800席は、今の場所で作れる大きさとしては精一杯の数だと思う。ただし、駐車場の100台は少ない。プロムナードの駐車場もすぐ一杯になってしまう

と思う。

事務局：駐車場に関しては、議会でも少ないという意見があった。施設の中に何百台の駐車場を設置するのであれば、施設の規模を縮小していくしかない。大きなイベントがあれば埋まると思うが、普段の大和駅周辺に何百台も駐車できるスペースを設ける必要があるのかも含めて検討していく必要があると考えている。

委員：使いやすい、利用しやすい施設とするために、アートプロデュースできる人材が設計に加わっていく必要があると考える。あるホールには、洋楽、邦楽いずれにも対応できるよう、さまざまな可動式の反響板があるが、実際にはあまり役には立っていない。音響の専門家がデザインや建築の段階で関わってほしい。この計画案にあるメインホールの可動式パネルは良いアイデアであると思う。

事務局：市の職員は、ホールに関する知識を十分に持っていないので、今後は、ホールの建設、管理運営のコンサルティングを行う業者とアドバイザー契約を結びたいと考えている。市内で活動されている団体の意見も、この業者を通して設計業者に伝えることができるのではないかと考えている。

会長：細かい部分については、市民の皆さんから意見、アイデアをもらった方が良い。より良い設計にするために、意見を聴く機会を数回設けていく必要があると考える。

委員：I K O Z Aの舞台は、吊りマイクがないため、音が拾えず楽屋に何も聞こえてこない。設計の段階であればこのようなことも修正できると思う。緞帳の絵を大和在住の芸術家にデザインしてもらおうといった意見やアイデアを市民が言える機会があると良い。

委員：パブリックコメントはどのように行われるのか。

事務局：9月15日から約1ヶ月意見を募集する。意見は書面で提出する方法である。

委員：竣工までのスケジュールはかなりタイトだが、これは決定なのか。

事務局：市としてはできるだけ早い時期に実現したいと考えている。

委員：今回は組合施工であることから、予算の関係で意見がカットされてしまうことはあり得るのか。

事務局：施設の仕様を良くしていけばいくほど、市の投資が増えていくこととなる。

委員：移転の了承はとれているのか。絶対立ち退かないという地権者はいないのか。

事務局：担当課に確認したところ、そういった話はないと聞いている。

(4) その他

次回は、11月21日(月)午後2時30分に開催することを確認。